

島根原子力発電所 2号炉 審査資料	
資料番号	EP-015改58(回6)
提出年月日	令和2年8月21日

令和2年8月  
中国電力株式会社

島根原子力発電所 2号炉 ヒアリングにおける確認事項に対する回答一覧表（有効性評価：限界温度・圧力）

No.	年月日	コメント内容	回答状況	回答内容
1	平成27年2月19日	限界温度・圧力（2Pd、200℃）の位置付けについて、PCPL（シール部でフランジ開口が始まる圧力）の考え方を踏まえて説明すること。	令和元年11月25日 第267回ヒアリング にて説明	シール部の開口量が許容開口量に達する圧力が最も低いドライウェル主フランジに対して漏えい判定境界を設定し、その境界に対して限界温度・圧力（200℃、2Pd）が裕度を持っていることの説明を追記した。  （EP-015改42「重大事故等対策の有効性評価」付録2 別添2-1～2ページ）
2	平成27年2月19日	動的荷重を含めた限界圧力の考え方を説明すること。	令和元年11月25日 第267回ヒアリング にて説明	重大事故等時における動荷重については、建設時に設計考慮した動荷重と同等である旨追記した。  （EP-015改42「重大事故等対策の有効性評価」付録2 別紙8-1～8ページ）
3	平成27年2月19日	電気ペネトレーションの気密性能について、アレニウス則に加えて、より長期の実測データを用いた説明を検討すること。	令和元年11月25日 第267回ヒアリング にて説明	アレニウス則による評価および電気ペネ共研より長期の環境試験結果を記載し、13日間の健全性は確認できていることを追記した。  （EP-015改42「重大事故等対策の有効性評価」付録2 添3-8～9ページ）

島根原子力発電所 2号炉 ヒアリングにおける確認事項に対する回答一覧表（有効性評価：限界温度・圧力）

No.	年月日	コメント内容	回答状況	回答内容
4	令和元年11月25日	ガスケットを増厚する理由を明確にすること。	令和元年12月3日 第271回ヒアリング にて説明	ドライウェル主フランジのガスケットを増厚することに至った経緯を追記した。  （EP-015改43（説8）「原子炉格納容器の限界温度・圧力に関する評価結果（PPT資料）6ページ」、EP-015改43「重大事故等対策の有効性評価」付録2 別紙15-1ページ）
5	令和元年11月25日	JSMEと耐性共研の試験について説明すること。	令和元年12月3日 第271回ヒアリング にて説明	JSMEと耐性共研の物性値を比較し、開口量評価上、厳しくなるJSMEの物性値を用いて再評価した旨、追記した。  （EP-015改43「重大事故等対策の有効性評価」付録2 別紙15-1ページ）
6	令和元年11月25日	常温でオートクレーブ試験を行った理由を説明すること。	令和元年12月3日 第271回ヒアリング にて説明	常温で気密試験を実施しても問題ない旨、追記した。  （EP-015改43(説8)「原子炉格納容器の限界温度・圧力に関する評価結果（PPT資料）14ページ」、EP-015改43「重大事故等対策の有効性評価」付録2 別紙3-1ページ）
7	令和元年11月25日	評価対象のシール部の形状等について整理した上で漏えいに対する裕度について説明すること。	令和元年12月3日 第271回ヒアリング にて説明	フランジ構造のシール部の漏えいが生じやすい理由を追記した。  （EP-015改43(説8)「原子炉格納容器の限界温度・圧力に関する評価結果（PPT資料）19ページ」、EP-015改43「重大事故等対策の有効性評価」付録2 別紙9-2ページ）

島根原子力発電所 2号炉 ヒアリングにおける確認事項に対する回答一覧表（有効性評価：限界温度・圧力）

No.	年月日	コメント内容	回答状況	回答内容
8	令和元年12月3日	JSMEと耐性共研のどちらが妥当な解析となるか物性値単位について解析全体の体系の中で説明すること。	令和元年12月10日 第809回審査会合	ガスケット増厚の経緯について、JSME設計・建設規格の物性値を用いた解析の妥当性を追記した。  (資料1-2-2「原子炉格納容器の限界温度・圧力に関する評価結果」6ページ、資料1-2-5「重大事故等対策の有効性評価 付録2」別紙15-1ページ)
9	令和元年12月3日	TIP火薬切断弁のパッキンの耐力について説明すること。(導管の太さも含めて)	令和元年12月10日 第809回審査会合	TIP案内管の寸法、カッターが作動した際にシールしているシール材の耐力について追記した。  (資料1-2-5「重大事故等対策の有効性評価 付録2」別紙23-2,3ページ)